

## 卒業前のブックトーク

## 1 活動の概要

2018年度（平成30年度）は、ブックトークに力を入れて読書活動に取り組んだ。夏休み前には、1～3学年全クラスで「課題図書」についてブックトークを行った。大庭中学校では初めての試みだったが、夏休み明けの読書感想文からは、紹介した課題図書を読んだり、選書のジャンルや内容に広がりが見られたり、大きな成果が得られた。冬休み前には、1学年で「季節のおすすめ本」についてクラスごとにブックトークを行った。

最後に、卒業を目前にした3年生に、「いつでも本がそばにあるよ」「地域ですっと見守っているよ」というメッセージをブックトークで伝えるため、学年一緒に体育館でできる形を考えて挑戦した。



## 2 活動の状況、実際

【対象】卒業を目前に控えた中学3年生

【作品】日野原重明著「いのちのおはなし」

【内容】人の一生を数直線で表し、小学校に入る頃、小学校を卒業する頃、中学生時代、高校生時代、社会人と、本の中で生きる主人公の姿を通して、「人生の様々なシーンで寄り添う本があること」をブックトークで紹介した。体育館で学年全体に実施したため、パワーポイントを使って図書を紹介し、会場にも子どもたちが手に取って見るように用意した。

【生徒の様子】学校図書館でコーナーを作って展示したところ、卒業前に紹介した本を借りる生徒も多く見られた。



## 3 参加者、指導者のコメント

【司書教諭・学校司書】

- 紹介した本をすぐに借りに来る生徒も多くいて、手ごたえがあったと感じた。
- 今すぐでなくても、人生困った時や悩んだときに、助けとなるような本があることや、地域にある公共図書館でも職員がみんなのことを待っていることを伝えられてよかった。
- 卒業後の生涯読書へつながるように、地域の公共図書館を紹介できてよかった。
- 子どもたちが、人生を数直線にとらえたら、まだまだ始まったばかりで、これからどんな本との出会いがあるのだろう、様々な本を読みたいなどと思える機会になったと思う。



湘南大庭市民図書館職員